15

地はひとつ大白蓮の花とみぬ
雪の中より日ののぼるとき

歌意

刻々と昇りゆく太陽に染められて雪原全体が薄紅色に輝いています。まるで巨大な蓮の花のようです。このように美しい朝には、地球はかけがえのないものだと思ってしまいます。

掲出歌集　『夢之華』明治39（1906）年9月
初　　出　「婦人世界」明治39年3月　題は「小ぐるま」
（晶子28歳）

・所 在 地　堺市立男女共同参画センター（コクリコさかい）
　　正面（堺区宿院町東４丁１－27）
　　南海バス大寺南門山之口前下車　南東徒歩５分
・建　　立　平成10年10月２日　創立50周年記念
　　堺市女性団体協議会
・デザイン　石坂義男
・書　　園村紅蕚（元堺女性大学講師）

堺市女性団体協議会創立50周年記念として建立された。

「地」を地球ととらえ、力強くグローバルに生きる女性たちの姿を思わせるこの歌が選ばれた。大地に生まれた生命の同一性に迫ってゆくかのような歌である。

「言葉という絵具を使って絵を描く絵師がある。この作者もその一人であるが、（中略）而して大きな光景を描く時に特にはっきり之が現れたものである。（中略）白皚々（がいがい）たる積雪を照らして金の塊りの様な朝日が昇って来る。（中略）作者の椽大（てんだい）な筆でもこれ以上の表現はできまいと思われる極限まで描いている。而して殆ど何時もそうである。」

（平野万里『晶子鑑賞』より）